

伊勢崎幼稚園に開くことに決す。

## 7、遊戯交換

時間の都合上次回にゆづる。

# 附屬幼稚園だより (一)

## 一、入園志願

二月一日から十日迄 募集廣告を出して置いたところ、入園志願者男児八十二名、女児百十九名、臨時補缺募集の分、男児三十九名。この内第一部第二部で男児は約四十五名、女児は四十名(臨時補缺の分は十名)を許可すべき筈である。

そこで二月十三日抽籤を行つて検定候補者を定めた。抽籤は例によつて眞鍮棒に番號を附せるものを志望者数だけ筒に入れ、蓋をして錠を下して抽籤器から、一本づゝ出願順に引出すのであるから、至極器械的であり、また公平な

ものである。誰でも一度抽籤の有様を見た人は、その公平なることを疑ふことが出来ない。しかし運を一本の籤にかけてゐることであるから、抽籤場に於ける光景は、悲喜こも／＼で、何となく氣の毒な感がする。

抽籤によりて第一部男児は六十二番まで、第二部男児はそのあと八十二番までとなし、女児では第一部は五十番まで、第二部は三十番までと定められた。尤も第一部で候補者の権利を得たものが第二部にて重複した場合は、實數三人となるまで三十番より下ることにしたのであるから、今年は偶然にも十五人も重複して、結局四十五番までが候補者となつた。

是等の検定を受くることの出来る候補者につき、心身の發育狀況を検定した。それが二月十六日より四日間續いて行はれた。何れ満四歳の幼児であるから、父母の附添で検定を受けるのであり、検定といつてもいろ／＼の遊びをなす間に行はれたものであるが、中にはイヤだと駄々をコネて、父母を困らせるものも數人あつた。一人が泣いたためにそれが傳染するといふ傾向もないではないが、多くは我儘育の者であるらしい。兎に角検定の結果について評議せられ、この四月より入園を許可せらるべき幼児は

第一部男兒 三十五名

第二部男兒 九名

第一部女兒 二十四名

第二部女兒 十七名

臨時第一部男兒 四名

臨時第二部男兒 六名

である。是等の發表は十九日午後一時半であつた。喜んで父母もあり悲しんだ父母もあつた。臨時募集と稱するは大正八年四月二日より大正九年四月一日までの六生、即ち滿

五歳男兒で昨年入園せるものゝ補缺である。毎年補缺がある譯でない。

## 二、入園の注意

二月二十七日午後一時半から検定の結果、入園許可の通知を受けた幼児の保護者を集めて、主事及び保母から入園の準備に關する細大の注意を説話した。是等の大要並に檢定に關する調査事項は追つて發表する機会があると思ふから茲には省略する。

## 三、雛祭

三月三日は雛祭り、幼児にとつては誠に楽しい幼稚園行事の一。當幼稚園では大震災火災の際、多くの雛様を焼失したので今は一もない。昨年は小石川の帝國女子専門學の二教室を借りて假幼稚園を實施してゐたのであるから、雛祭どころの話ではなかつた。所が昨年四月は現在の新校舎、バラックといふも、兎に角新しき、しかも古き校地に歴史ある地に歸つた。それ以來いろ／＼新しき設備の途上で、

また雛様を購入する運に至らないが、幸に父兄の有志から寄贈せられた雛様を修繕して飾つた。しかし幼児にとつて新しくとも古くとも彼等の雛様、幼児の雛祭として喜んで一日を愉快に過す準備に忙かしいところ。

#### 四、視 察

新庄保母並に大野保母の兩人は、命によつて京都、奈良、大阪の二府一縣へ幼稚園保育の視察に出張した。二月十四日より四泊五日の旅行。關西幼稚園の状況を視察して得る所が大であらう。參觀の便宜を與へられ、いろいろ指導せられたる方々の御厚意を謝してゐます。

#### 五、幼兒終了

三月二十日まで幼兒は幼稚園に出席。それまでの間に學年末の會をなす豫定。何れいろ／＼幼兒のお話や遊戲の催をなす。また實習科生徒の作業も加る筈。

三月二十五日には幼稚園の修了式舉行。二十六日より四月七日まで休業。四月八日午前九時より新しく入園する幼

兒を加へて百六十餘の生活作業が開始せられる。

#### 六、保育實習科

この三月二十七日に修了する保育實習科生徒十七名、目下それ／＼就職の交渉。若き保母諸君の前途洋々。

更に四月より入學する保育實習科生徒約二十名は二月中募集。全國的に、何縣からでも志願し得ることになつてゐる。是等の志願者につき履歷書身體檢査書等につき選抜決定する筈で、所謂入學試験はない。不日その結果が發表せられるであらう。(三月一日稿 醫峰生)

#### ○受験幼兒の感想

姉「陸子さん 今日どこへ行つて來たの」

『お茶の水幼稚園』

姉「どんなことがあつたの」

『先生と遊んで來たの。あしたまたいくわ』

姉「あした 行つてはいけないでせう。もうしばらくたつ